施策評価シート（令和５年度　実績）

【行政評価】
施策５

重点的方針	活力があふれる、選ばれるまちづくり
概要	人口減少がもたらす地域経済の縮小を克服するため、町の特徴や資源を活用した創意工夫によるビジネスモデルの構築や農地の有効活用を支援し、観光とも連携した経済活性化を進めます。 商工業においては、商工会と連携した創業・経営支援を継続するとともに、事業者の高齢化などの課題に対応した第三者による事業継承や、時代に即した事業転換などを支援します。 農業においては、オリーブや落花生などの特産物の普及を奨励するとともに、遊休農地の地権者に土地の利用意向を確認したうえで、農地の集約化、新規就農者・法人の参入や遊休荒廃地の復元整備を支援していきます。 これらの経済活動を観光や環境といった施策と横断的に連携させることで、二宮の魅力を発信する移住定住施策など、関連する各施策が相乗効果を得られるよう取り組みます。

No.	関連する主な予算等事業	トータルコスト（千円）				庁内評価（２次評価）			
		R5	R6	R7	R8	R5	R6	R7	R8
1	特産物普及奨励事業（農業再生事業）	1,597				適当・維持			
2	観光振興対策経費	12,523				良好・維持			
3	商工業振興対策経費	68,406				良好・維持			
4	農業振興事業	12,279				適当・維持			
5	遊休・荒廃農地対策事業	2,743				適当・維持			
6	「にのみやＬｉｆｅ」移住・定住・交流ＰＲ事業	2,210				良好・維持			
－	その他	210,007							
合計		309,765	0	0	0				

※達成状況：A　達成（100%以上）、B　概ね達成（70%以上）、C　充分とは言えない（50%以上）、D　未達成（50%未満）

関係する主な重要業績評価指標（KPI）

指標名		基準値	R5	R6	R7	R8	達成状況
町内オリーブの生産量【戦略】（トン）	計画	1.25	1.3	1.4	1.5	1.6	A
	実績		3.8				
町観光入込客数【戦略】（人）	計画	497,434	500,000	510,000	520,000	530,000	A
	実績		578,602				
起業相談件数【戦略】（件）	計画	30	30	30	30	30	A
	実績		31				
事業継承に関する相談【戦略】（件）	計画	0	3	3	3	3	A
	実績		3				
認定新規就農者数【戦略】（人）	計画	3	3	3	3	3	D
	実績		1				
遊休荒廃地の復元整備支援件数【戦略】（件）	計画	1	5	5	5	5	D
	実績		2				
町HPの「にのみやLife」の閲覧数【戦略】（件）	計画	44,474	142,000	144,000	146,000	148,000	B
	実績		140,542				
二宮町の社会移動数【戦略】（人）	計画	+57	+60	+65	+70	+75	A
	実績		+80				

前年度	成果	－
	課題等	－
今年度	成果	・町内オリーブの生産については、継続的な栽培ができるように資材等の補助を実施した結果、目標を達成した。 ・令和７年度の法人化に向けた取組の推進や、コロナ禍以来初のふるさとまつり通常開催、菜の花ウォッチングを開催するなど、二宮町観光まちづくり戦略を推進した。 ・オンライン移住相談会、東京会場での移住相談会、移住者を集めた交流会『二宮町いいとこ発見会』を開催した。
	課題等	・全国的に担い手が不足している中、遊休荒廃農地の解消や新規就農者の確保にあたっては、県やJAによる支援策と連携し、取り組む必要がある。 ・移住相談会等に参加した方のその後の情報把握方法の研究。

※評価 「Ａ：十分な成果があった」「Ｂ：一定の成果があった」「Ｃ：あまり成果がなかった」「Ｄ：成果が得られなかった」

内部評価（評価・理由等）	
Ｂ：一定の成果があった	・オリーブの生産量増加と「湘南オリーブオイル」の地域団体商標認定は、特産物普及活動の成果として捉えることができる。 ・事業者への支援については、対話を通じてニーズを的確に捉え支援策を実施する。 ・新規就農者は増えているものの目標値未達のため、引き続き県やＪＡと支援策を連携し、新規就農者の確保に努める。 ・移住・定住事業を始めて以来、社会移動数は確実に増えている。一方で、それが移住・定住事業による効果なのかを定量的に測定することができていない。
外部評価（評価・主な意見等）	
Ｂ：一定の成果があった	・新規で就農を考えている方にとって、農地を使用するにあたっての制限から思うように進めることができないことや、鳥獣対策等も含めて自身ですべての作業を行わなければならないことは非常に厳しいので、町は関係団体とも協力しながら、新規就農者を支えるための仕組みづくりが必要である。 ・遊休荒廃地の復元整備支援件数については、計画値がこれまでの実績と比べて厳しい数値になっているように感じるので、実態に即した数値とすることも検討すること。 ・荒廃地となっている土地所有者との調整を積極的に実施するなど、遊休荒廃農地を無くすための取り組みを進める必要がある。

※ 町の最終方針 「継続推進」「一部改善」「抜本的見直し」

町の最終方針（今後の方向性）	
継続推進	**〈活力があふれる、選ばれるまちづくり〉** **地域の魅力向上** 町の魅力を活かした観光や地域振興を進め、「選ばれるまち」となるよう取り組む。 ・鳥獣対策等も含め、就農を希望される方に対して、JA湘南など関係団体と連携したワンストップ相談窓口を活用し、引き続き新規就農者へのサポートを図る。 ・遊休荒廃地の復元整備支援を利用する方の多くは新規就農者のため、就農するタイミングによって実績に影響する。農地パトロールなどにより遊休荒廃地を確認、その結果によって、農地の適正管理に関する啓発や農地貸借の促進などにより、遊休荒廃地の削減を図る。 **有害鳥獣の被害対策** 有害鳥獣対策協議会の活動によるイノシシなどの個体数の減少や、集落環境整備のための広域被害防止柵の整備などによる有害鳥獣の被害対策を図る。